

庭でつろがれる(右から)皇太子さま(浩宮)、秋篠宮さま(礼宮)、皇后さま=68年10月、東宮御所



米フィラデルフィアの自宅でピアノをひく6歳当時の紀子さま=72年

学生時代、学習院大のキャンパスを散歩される秋篠宮さまと紀子さま=85年11月



学生時代、紀子さまと一緒にスキーを楽しまれる秋篠宮さま=86年3月、長野県飯山市の斑尾高原スキー場

秋篠宮家の歩み

- 1965年11月30日・天皇陛下(当時皇太子)の二男として秋篠宮さまが誕生
- 66年9月11日・川嶋辰彦氏の長女として秋篠宮妃紀子さま誕生
- 88年3月・秋篠宮さま学習院大法学部を卒業
- 88-90年・秋篠宮さま英国オックスフォード大大学院動物学科で修学
- 89年3月・紀子さま学習院大文学部を卒業
- 89年3月9日12日・皇室会議で婚約が決まり二人が記者会見。「プロポーズは86年6月に信号を待ちながらだった」
- 90年6月29日・結婚の儀、秋篠宮家を創設
- 91年10月23日・長女眞子さま誕生



1991年11月秋篠宮さまと紀子さま、眞子さま

- 94年12月29日・二女佳子さま誕生
- 96年4月11日・眞子さま学習院幼稚園に入園
- 96年9月・秋篠宮さまが理学博士(国立総合研究大学院大)
- 98年4月10日・眞子さま学習院初等科に入学
- 99年4月11日・佳子さま学習院幼稚園に入学
- 2001年4月10日・佳子さま学習院初等科に入学
- 02年12月4日・秋篠宮さまが誕生日に際した記者会見で第3子について「今後のことはまた相談をしながら」
- 03年12月11日・宮内庁の湯浅利夫長官(当時)が、ご夫妻の第3子を期待するとの発言
- 04年4月6日・眞子さま学習院女子中等科に入学



2004年4月フィギュアスケート競技大会で演技する佳子さま

- 11月25日・秋篠宮さまが誕生日に際した会見で、皇太子さまの「人格否定発言」に苦言
- 05年11月15日・秋篠宮さまの友人黒田慶樹氏と妹の清子さんが結婚
- 06年2月7日・紀子さまの第3子懐妊明らかに
- 7月18日・宮内庁が、紀子さまは部分前置胎盤と診断されたと発表
- 8月・眞子さまオーストリアでホームステイ

06年8月馬と戯れる眞子さま



- 8月16日・紀子さま入院
- 9月6日・長男が誕生

家族の歴史に

友人の近況に気遣い

紀子さま サークル同期と手話で

第三子の長男を出産された秋篠宮妃紀子さまは、手話を通じ、福祉活動に積極的なことでも知られる。母校で所属していた手話サークルの当時のメンバーとは今も交流、友人を気遣い、近況を知るのを楽しみにしているという。

学習院大の手話サークル「のぞみ」で紀子さまと同期で、ただ一人、ろう者のメンバーだった伊藤文久さん(41)。毎年開かれていた手話のスピーチコンテスト

の運営に、数年前から協力している。

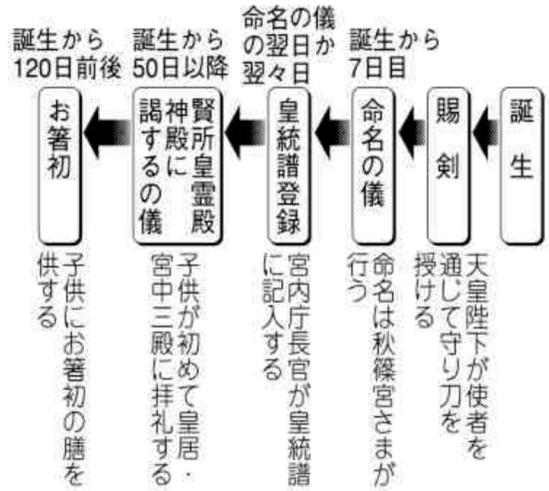
このコンテストには、紀子さまも出席しており、伊藤さんは舞台裏で紀子さまに会うと、手話で互いの友人たちの近況を報告。「(同期の)誰それが最近結婚したとか、子供が生まれたとか。たわいもない話題ですが、いつもにこにこ楽しんでます」という。

伊藤さんは、学生当時の紀子さまの奇稿が載っている

出産までの経過

- 2月7日・羽田信吾宮内庁長官が「紀子さまにご懐妊の兆候がある」と発表
- 24日・金沢一郎皇室医務主管が「妊娠3カ月目」と発表
- 4月27日・安産を願い、腹帯を初めて着ける「内着帯(ないちゃくたい)」
- 5月2日・秋篠宮ご夫妻が奈良市で福祉施設を訪問し、東大寺の法要に出席
- 7月18日・金沢医務主管が「部分前置胎盤」と診断されたと発表
- 8月1日・妊娠9カ月目の戌(いぬ)の日に安産を願う「着帯の儀」
- 15日・宮内庁が「16日に入院される」と発表
- 16日・愛育病院に入院
- 26日・天皇、皇后両陛下がお見舞い
- 9月1日・宮内庁が「6日に帝王切開により出産される」と発表
- 6日・長男を出産

誕生後の主な儀式



秋篠宮妃紀子さまの出産を受け、宮内庁は、第三子を担当する看護師一人を宮内庁職員として採用することを決めたのはじめ、秋篠宮邸の一部を改修するなどの態勢を整えている。将来は養育担当の職員を新たに配置することも考えられるという。新規採用される看護師

宮内庁は、第三子を担当する看護師一人を宮内庁職員として採用することを決めたのはじめ、秋篠宮邸の一部を改修するなどの態勢を整えている。将来は養育担当の職員を新たに配置することも考えられるという。新規採用される看護師

宮内庁は、第三子を担当する看護師一人を宮内庁職員として採用することを決めたのはじめ、秋篠宮邸の一部を改修するなどの態勢を整えている。将来は養育担当の職員を新たに配置することも考えられるという。新規採用される看護師

宮内庁 担当看護師1人を採用

秋篠宮邸の一部を改修するなどの態勢を整えている。将来は養育担当の職員を新たに配置することも考えられるという。新規採用される看護師

この言葉通り、卒業後も手話の勉強を続けた紀子さま。懐妊中だった五月二十一日、港区のホテルで開かれた全日本ろうあ連盟主催の手話による講演会では、英語の手話を使って参加者と交流する姿も見られた。伊藤さんは「母子ともにお元気で、今後もうあ者との橋渡し役になってほしい」と願っている。

は、東京都内の医療機関での勤務経験があり、小児科が専門。またこの看護師とは別に、必要に応じて秋篠宮邸に派遣する数人の臨時の看護師もリストアップしている。紀子さまの体調管理のため八月に秋篠宮邸に詰めていた看護師は、愛育病院から一時的に派遣されていた。

現在、秋篠宮家の宮内庁職員は九人で、医療関係の専門職員はいない。このほか食事など身の回りの仕事のため、秋篠宮家が私的に雇用した使用人が数人いる。

宮内庁は出産から一年後をめどに、秋篠宮ご夫妻の意向も踏まえて、看護師に代わり保育士の資格を持つ養育担当の職員の採用を検討する。

眞子さまや佳子さまの出産後は、看護師や保育士をそれぞれ秋篠宮家が私的に雇っており、費用は皇族費で賄っていた。しかし今回は、紀子さま自身の公務復帰や将来増えることが予想される秋篠宮ご夫妻の活動に支障がないよう、宮内庁費で支出することにした。